授業科目名： スポーツ実技 （ヨガ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：雄谷昌子 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		

授業のテーマ及び到達目標
（テーマ）近年、AI機能やスマートフォンの進化により、とても便利な社会である反面、運動不足や不規則なライフスタイルから心身の不調を起こしている人が増えている。運動が体、心、脳に良い効果があることは、多くの研究報告から明らかになっているが、その中でもヨガは、時代の流れと共に変遷され、医学や心理学、企業での人材育成や能力開発など、様々な分野に活かされている。そのヨガの知恵を現代社会に取り入れやすいかたちで、実技を中心に体験学習する。学生生活また卒業後も心身のバランスを保つセルフコンディションワークとして身に付けることを目的とする
（到達目標）*15回の授業で、柔軟性、筋持久力、心肺機能など基礎体力が徐々に向上するが、実技体験から感じたこと、気付きを、まとめ発表する。*授業で学んだことを、自己のコンディションワークとして取り組みやすいようにまとめ実践する。*授業では、多種多様なヨガアプローチを体験する。古来からのヨガの智慧を社会システムの変化が著しい現代社会の流れに合うように、斬新なヨガを体験することでクリエイティブな発想へと繋がる。

授業の概要
*授業では、様々な分野に活用されているヨガの知恵をセルフコンディションワークとして取り入れやすいかたちで学ぶ。*実技は、体の構造的なことを踏まえ段階的に、全身バランス良く効果的に動かす為、気持ち良くマイペースで取り組め爽快感と達成感が得られる。*フレキシブルな実技進行から楽しく学びながらクリエイティブな発想に繋がる。*実技理論においては、ヨガ概論以外にも体の構造的なことやアーユルベーダ、東洋医学などの伝統医学から心身のコンディションアップに繋がる要点を学ぶ。

授業計画
第１回：*ヨガとは(歴史、哲学)　*運動による効果とヨガ　*基本動作、ニュートラルな姿勢
第２回：*ヨガの効果(体、脳、メンタル)　*ヨガの効果(様々な分野でのヨガの活用)
　　*基本動作と応用(音楽を使いリズミカルなヨガ)
第３回：*グローバル社会におけるヨガ活用(希少性、情報編集力)
　　*基本動作と変換(リズミカルなヨガ、整体ヨガ)
第４回：*ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲帯)
　　*体幹と四肢の繋がり(キネティックチェーン) *基本動作と変換(骨盤調整)
第５回：*体幹の筋解剖学 *呼吸の意識と効果(呼吸の筋解剖学､呼吸法) *呼吸と動作の繋がり
　　*自律神経と呼吸 *基本動作と変換(背番調整)
第６回：*右脳と左脳と体の繋がり *脳番地からみたヨガ運動による脳への効果
　　*基本動作と変換(股関節調整)
第７回：*足裏反射区 *音楽との調和を楽しむヨガ
第８回：*手の反射区 *音楽との調和を楽しむヨガ
第９回：*アーユルベーダによる３つの体質と特徴 *音楽との調和を楽しむヨガ
第１０回：*東洋医学陰陽五行説による体の繋がりと特質、臓器時計
　　*基本動作、セルフマッサージ(筋膜リリース、リンパドレナージュ)
第１１回：*五感とマインドフルネス *伝統医学からの健康法抜粋 *基本動作と音楽活用
　　*腰痛、肩こり緩和のヨガ
第１２回：*養生カラーセラピーの効用と体の反応 *レクリエーションとしてのヨガ
第１３回：*伝統医学からの抜粋(ツボの効用と整体) *基本動作と症状別対処方法例
第１４回：*ヨガの生理学効果、ヨガの解剖学的効果のまとめ *音楽との調和を楽しむヨガ
第１５回：まとめ

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
雄谷昌子オリジナル動画(ヨガ概論、アーユルヴェーダ、東洋医学、整体などヘルスケアビューティー実技理論と実技サンプル)を週1回classroomより配信

学生に対する評価
平常点等（100点）実技やシェアリング、ドリルなどポジティブな取り組み度チェック(60点)、動作の理解と気づきを深める(30点)、ミニレポートまたは発表(10点)

授業科目名： スポーツ実技 （ジャズダンス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：浅賀園恵 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		

授業のテーマ及び到達目標
（テーマ）現代では、全世界のエンターテインメント界でもっとも親しまれているジャンルである。本授業では、曲の理解を深めると共に表現の幅を広げ、ジャズダンスの歴史、特徴、スタイルを体験的に学ぶ。
（到達目標）１．曲に合わせた動きや表現することができる。２．ジャズダンスを踊るうえで必要な技術を身につける。３．グループ創作活動を通して、他者との円滑なコミュニケーションを図る能力を身につける。４．授業内で設定する自己課題の解決に向けて、主体的に取り組む。５．ダンスを踊る面白さや、その開放感等感じたことを言語化し、更に実生活において活用できる。

授業の概要
授業前半では、ダンスを踊る基本的な身体トレーニングを行う。また、これについては授業内において継続的に実施することで、自身の身体の調子を整える技術として活用する。授業中盤～後半にはジャズダンスの基本的なステップを段階的に学習を進めながら、課題曲についての振付を覚え、踊れるようにする。
授業終盤は、グループに分かれ部分的な振付の創作、フォーメーションの設定などを行いダンス発表を行う。

授業計画
第１回：オリエンテーション　(1)科目目的と授業内容の説明
　　(2)基礎トレーニングの説明と実践　(3)ジャズダンスとは
第２回：基礎トレーニングの復習と実践、ジャズダンス振付　入門＆基礎①　Ａメロ振付
第３回：ジャズダン振付 入門＆基礎②　Ａメロ復習・サビ振付
第４回：ジャズダンス振付　入門＆基礎③　Ａメロ～サビの復習・小テスト
第５回：ジャズダンス振付　基礎①　ターン練習・Ａメロ振付
第６回：ジャズダンス振付　基礎②　Ａメロ復習・サビ振付
第７回：ジャズダンス振付　基礎③　Ａメロ～サビの復習・小テスト
第８回：課題振付①　Ａメロ～サビの振付・グループ分け
第９回：課題振付②　Ａメロ～サビの復習・振付の一部分を創作・フォーメーションの考案
第１０回：課題振付③　練習・発表
第１１回：グループワーク①　グループ分け・振付の考案
第１２回：グループワーク②　振付復習・フォーメーションの確定
第１３回：グループワーク③　練習・発表準備
第１４回：グループワーク④　発表
第１５回：全授業のまとめ　レポート
※第４回、第７回、第１０回、第１４回では発表（振付テスト）を実施する。

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
ダンサーなら知っておきたい「からだ」のこと(2008)
著者　水村真由美
ISBN：978-4-469-26672-6

評価
平常点等（100点）毎授業への参加態度（30点）、グループ活動への貢献（20点）、発表（20点）、小テスト（20点）、レポート（10点）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：木村麻衣子 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標
（テーマ）英語で話すことに慣れていない学生が、英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけ、身近な話題について会話する基礎的な力を培うことを目的とする。本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。
（到達目標）挨拶、自己紹介などを英語で行うことができる。身近な話題であれば、会話の内容を大枠で聞き取ることができる。基礎的なやさしい表現を用い、身近な話題について英語で話すことができる。

授業の概要
授業では、講師やクラスメートとのペアワークやアクティビティ等を通じて、基本的な会話を練習する。また、会話を円滑に進めるコツを学び、できるだけスムーズに話す練習をする。

授業計画
第１回：オリエンテーション(授業の注意事項の確認､評価方法等)､Classroom Englishの練習
第２回：Classroom Englishの復習・口頭試験紹介・練習
第３回：Unit 1 Class Album（クラスアルバム）/質問をする
第４回：Unit 1 Class Album（クラスアルバム）/丁寧に質問をする
第５回：Unit 9 Music Profile（音楽紹介）/興味や好みを尋ねる
第６回：Unit 9 Music Profile（音楽紹介）/会話内容を伝える
第７回：Unit 6 Bargain Shopper（バーゲンの買い物客）　/アイテムの説明をする
第８回：Unit 6 Bargain Shopper（バーゲンの買い物客）/申し出を断る
第９回：Unit 10 Style Makeover（イメージチェンジ）/洋服の説明をする
第１０回：Unit 10 Style Makeover（イメージチェンジ）/丁寧にアドバイスをする
第１１回：Unit 1、9、6、10の復習および口頭試験①
第１２回：Unit 2 Favorite Photos（好きな写真）/写真や場面を描写する
第１３回：Unit 2 Favorite Photos（好きな写真）/続けて質問をする
第１４回：Unit 4 Believe It or Not（信じようと信じまいと）/物語を伝える
第１５回：Unit 4 Believe It or Not（信じようと信じまいと）/興味を示す
第１６回：Unit 5 Where I Grew Up（育った場所）/過去のルーティンを説明する
第１７回：Unit 5 Where I Grew Up（育った場所）/詳細に伝える
第１８回：Unit 3 Personal Goals（目標）/将来の目標を述べる
第１９回：Unit 3 Personal Goals（目標）/アドバイスを求める
第２０回：Unit 2、4、5、3の復習および口頭試験②
第２１回：Unit 11 Honesty（誠実さ）/仮定的な質問をする
第２２回：Unit 11 Honesty（誠実さ）/不明な点を確認する
第２３回：Unit 12 School Reform（学校改革）/問題点を説明する
第２４回：Unit 12 School Reform（学校改革）/他の人に話を促す
第２５回：Unit 7 The Perfect Gift（パーフェクトな贈り物）/アイディアを説明する
第２６回：Unit 7 The Perfect Gift（パーフェクトな贈り物）/受け渡しをする
第２７回：Unit 8 Party Planner（パーティーの立案者）/情報を尋ねる
第２８回：Unit 8 Party Planner（パーティーの立案者）/提案に対して返答する
第２９回：Unit 11、12、7、8の復習および口頭試験③
第３０回：総復習

テキスト
Active Skills for Communication 1 (Chuck Sandy (Author), Curtis Kelly (Author)/ Heinle Cengage Learning)

参考書・参考資料等
特になし

学生に対する評価
平常点等（100点）デイリーチェック（50点）口頭試験×3回（30点）クラスワーク（20点）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：木村麻衣子 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標
（テーマ）英会話学習に関心があり、基礎的な英語力がある学生が、日常の身近な話題や、物事について、よりスムーズに会話の「キャッチボール」を楽しむ力を身につけることを目的とする。また、会話に必要な文法事項の復習や、語彙力の強化も同時に行う。本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。
（到達目標）休日の過ごし方、買い物、旅行など、日常想定できる場面で、自分の意見を的確に伝えることができる。馴染みのない話題でも、質問を繰り返すなどして、大枠で理解できる。重文のみならず、複文を使って会話ができる

授業の概要
授業では、できるだけ長く会話を続けたり、主体的に話したりすることを意識して、講師やクラスメートと英語でのやりとりを練習する。また、基本的なプレゼンテーションの方法やコツを学び、練習をする。

授業計画
第１回：オリエンテーション(授業の注意事項の確認､評価方法等)、Classroom Englishの練習
第２回：Classroom Englishの復習・口頭試験紹介・練習
第３回：Unit 1 Class Facebook（クラスフェイスブック）/質問をする
第４回：Unit 1 Class Facebook（クラスフェイスブック）/あいづちを使って会話をスムーズに進める
第５回：Unit 2 Personal Motto（モットー）/意見を述べる
第６回：Unit 2 Personal Motto（モットー）/不明な点を尋ねる
第７回：Unit 3 Tall Tales（でたらめ）/物語を伝える
第８回：Unit 3 Tall Tales（でたらめ）/聞いた話を繰り返す
第９回：Unit 4 Keepsakes（思い出の品）/ 過去について話す
第１０回：Unit 4 Keepsakes（思い出の品）/シャドウィングする
第１１回：Unit 1、2、3、4の復習および口頭試験①
第１２回：Unit 7 Class Cookbook（クラスの料理本）/指示を出す
第１３回：Unit 7 Class Cookbook（クラスの料理本）/ゆっくり話すよう頼む
第１４回：Unit 8 Business Venture（ビジネス・ベンチャー）/主な特徴を説明する
第１５回：Unit 8 Business Venture（ビジネス・ベンチャー）/躊躇する
第１６回：Unit 5 Team Spirit（団結心）/提案をする
第１７回：Unit 5 Team Spirit（団結心）/異議を唱える
第１８回：Unit 6 Hot Spots（人気の場所）/好き嫌いについて話す
第１９回：Unit 6 Hot Spots（人気の場所）/提案に対して答える
第２０回：Unit 7、8、5、6の復習および口頭試験②
第２１回：Unit 12 Mini Debate（ミニ討論）/自分の意見を述べる
第２２回：Unit 12 Mini Debate（ミニ討論）/ポイントを説明する
第２３回：Unit 9 Job Interview（就職の面接）/手本に習って職業について述べる
第２４回：Unit 9 Job Interview（就職の面接）/ミラーリングする
第２５回：Unit 10 TV Preview（テレビの予告編）/何についてかを説明する
第２６回：Unit 10 TV Preview（テレビの予告編）/感情を込めて話す
第２７回：Unit 11 Public Opinion（世論）/仮説的な状況について話す
第２８回：Unit 11 Public Opinion（世論）/意見を述べる
第２９回：Unit 12、9、10、11の復習および口頭試験③
第３０回：総復習

テキスト
Active Skills for Communication 2 (Chuck Sandy (Author), Curtis Kelly (Author), Neil J. Anderson (Contributor)/ Heinle Cengage Learning)

参考書・参考資料等
特になし

学生に対する評価
平常点等（100点）　デイリーチェック(50点)、口頭試験×3回(30点)、クラスワーク(20点)

授業科目名： 留学準備演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：木村麻衣子 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）初めての留学を考えている人向けの本科目では、海外で生活を送るために必要な手続きや知識、心構えについて事前に学び、留学生活をより有意義なものにできるよう準備を行う。

（到達目標）英語圏に渡航する際や、ホームステイ先、学校で使用する基本的な表現を学ぶ。留学に関しての基礎知識を持ち、それを他者にも説明することができるようになる。現地で体験するであろう事柄に対して、英語でコミュニケーションをとって問題に適切に対処し、解決することができるようになる。

授業の概要

入国の手続きや、ホームステイ先でのマナー、留学先の国と日本の文化の違いについて事前に知り、海外での生活で直面する可能性があるトラブルやカルチャーショック、ホームシックなど様々な問題への対処法を考える。英語圏で日常生活や学校生活を送る際に必要な基本的な英会話表現にも触れながら実際の留学生活をイメージし、各自が留学前と留学後で自分自身にどのような変化が起こるのか、実りのある留学とは何かについて考える。毎回単語テストを行う。興味のある留学先についてリサーチをしたり、最終日には「わたしの留学」というテーマで理想の留学プランをクラス内で発表する。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業の注意事項の確認･評価方法･自己紹介･留学について等）
第２回：Unit 01 Introducing yourself　大学と専攻、クラブ活動、余暇活動について話す
第３回：Unit 02 A Geography Lesson　地理、気候、旅行の日程について話す
第４回：Unit 03 Arriving　旅行経験について話す、入国カードに記入する、指示と助言を理解する
第５回：Unit 04 People　人を紹介する、仕事と人柄について話す、現在の活動について話す
第６回：Unit 05 House Rules　物の場所を説明する、ハウスルールを理解する、部屋の使い方を理解する
第７回：Unit 06 Orientation　Ifの文を使って説明する、時間割について話す、意味を尋ねる
第８回：Unit 07 First Lesson Day　自習活動について話す、道案内を理解する、場所について話す
第９回：Unit 08 Activities and Trips　やりたいことを伝える、必要性を理解する、義務を説明する
第１０回：Unit 09 Housework　依頼する、許可を求める、手伝いを申し出る
第１１回：Unit 10 Food and Drink　飲食物について説明する、食べ物を頼んだり提供したりする、食べ物の感想を言う
第１２回：Unit 11 Money and Shopping　服を買う、商品を比較する、サイズについて話す
第１３回：Unit 12 Safety on Campus　トラブルについて話す、当時の状況を伝える、遺失物について説明する
第１４回：プレゼンテーション準備　留学先に関するリサーチ、プレゼン資料&原稿作成を行う
第１５回：プレゼンテーション　『私の留学』というテーマで、いつ、どこに、なぜ、どれくらいの期間滞在し、何をして、どんな自分になりたいか等を発表する

テキスト：Ready for Takeoff! English for Study Abroad

参考書・参考資料等　特になし

学生に対する評価

①小テスト50点　②プレゼンテーション30点（準備への取り組み 10点/発表時のパフォーマンス 20点）③クラスワーク20点

授業科目名： English for Studying Abroad	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： １単位	担当教員名：A.L.エイデン 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）Encountering a new culture and using a new language are part of the challenge of studying abroad. In preparation for traveling or studying abroad, students can enjoy the process of getting ready in this course. The objective of this class to help students think about their own expectations about the customs and style of life in another country.（留学において大きなチャレンジのひとつは異文化との出会いと外国語の習得である。本科目では留学や海外旅行のための準備をする過程を楽しみながら行う。本科目の目的は外国の習慣や暮らしについて受講生それぞれが自分なりに想定できるようにすることである。）

（到達目標）Learning about the communication or academic styles of another culture is part of the adventure of studying abroad. When students compare their ideals of living abroad to the reality of it, there could be moments of culture stress. In this course, students can learn about their personal styles of learning and communication as they discuss about common topics introduced through activities and discussions.（留学では異文化におけるコミュニケーションや学習スタイルを学ぶことも重要な体験のひとつである。海外生活の理想とその現実を比較する時に文化的なストレスを感じることもあるだろう。本科目では一般的なテーマに関するアクティビティやディスカッションを通じて学生が自分自身の学びやコミュニケーションのスタイルを認識できるようにする。）

授業の概要

There are many reasons to travel or study abroad that will be explored in this class. As students develop their language skills, they will also gain an awareness of the ideas that are connected to the culture and daily life that may be experienced in other countries. The differences between groups of people also reflect the discovery of things that are the same. In this course, students will enjoy content that will help them prepare for international life.（留学や海外旅行の様々なプラス面を授業で探求する。受講生は語学力を伸ばしながら外国で経験するような文化や日常生活に関連する知識を深める。異文化に属する人々の間の違いに気づくことにより、共通する面についても認識する。この授業では海外生活のための準備をどうすればよいか考えられるような内容を扱う。海外旅行や留学の動機は様々だが、この授業ではその意義を探求する。受講生は語学力を伸ばすと同時に、外国で経験する文化や日常生活と結びついた考え方を認識する。グループ間の違いは、共通するものの発見でもある。この授業では、受講生は将来の国際的な生活に役立つ考えを学びます。）

授業計画

第１回：Introduction activity and class plan explanation
（授業導入アクティビティと授業計画の説明）
第２回：Activity：Destinations for ESA（アクティビティ：この科目の到達目標）
第３回：Discussion：International purposes for communication
（ディスカッション：コミュニケーションの国際的な意義）
第４回：Activity：Procedures for traveling abroad
（アクティビティ：海外渡航時の手続き）
第５回：Discussion：Sharing Japanese culture（ディスカッション：日本文化の共有）
第６回：Activity：Practical aspects of ESA（アクティビティ：この科目の実践的側面）
第７回：Discussion：Preparing for difficulties（ディスカッション：違いに対する心構え）
第８回：Activity：Discussion skills（アクティビティ：ディスカッションのスキル）

第９回：Discussion: Negotiation skills（ディスカッション：交渉のスキル） 第１０回：Activity: Textbook review（アクティビティ：教科書の復習） 第１１回：Project presentation information（プロジェクト：プレゼンテーションについて） 第１２回：Activity: Pair review for project （アクティビティ：プロジェクトのペアレビュー） 第１３回：Project Presentation（プロジェクト：プレゼンテーション） 第１４回：Project Presentation（プレゼンテーション） 第１５回：Final class review（最終講評）
テキスト： Across Borders: Preparing for Study Abroad（Tsuji, K & Tsuji, S./ Sanshusha）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 平常点（100点）This grade will be based on weekly homework（25%）, out of class assignments（20%）, in class discussion and activity responses（30%）and final presentation（25%）（平常点等配点内訳：毎週提出の課題（25%）、 プロジェクト（40%）、 小課題（10%）、 最終発表（25%））

授業科目名： 環境英語演習 （留学プログラム）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：村田成範 担当形態：単独
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）本演習は、グローバルな社会問題を解決するための国際感覚を養成することを目的とし、環境問題を議論する際に必要な英語力のレベルアップをはかることを目標とする。

（到達目標）１）聞く、話す、読む、書くの技能を磨き、英語で自らの考えや感じたことを発信できるようになる。２）アメリカ文化やアメリカの環境問題に関する理解を深め、グローバルな環境課題について英語で議論できる。

授業の概要

本学のアメリカ分校MUSCに約4週間滞在し、現地教員（TESOL有資格者）によるカンバセーション、リーディング、ライティングの授業を受けて英語コミュニケーション能力を向上させるとともに、アメリカ文化やアメリカの環境問題に関する理解を深める。地域の自然観察および環境活動についてヒアリングを含めて探究し、英語で他学科の学生や地域住民に対して発表・質疑応答することで理解を深める。

授業計画

（１）英語習得学習(ESL:English as a Second Language)　英語で自らの考えや感じたことを発信できるよう、4技能（聞く、話す、読む、書く）全てにおいて指導する。それぞれのスキルにおける指導方針は以下の通りである。

a. 聞く・話す　間違いを恐れずに英語を口にだして意思を疎通させる自信を与えることが第一の目標である。授業の内容は現実的状況を背景にした会話のパターンや語彙の習得を基本とする。

b. 読む　日本での訳読の習慣から脱却するために、易しい英文を早く読解するように訓練する。その為にも英語を一語一句ずつ読むのではなく、文節単位に内容を把握する練習をする。

c. 書く　文単位の和文英訳から抜け出して、易しい英語を考えながらパラグラフを書く練習を基本とする。例えば、自分の街の紹介、見学や旅行の後の感想や報告文、またジャーナル(日記)をつけたりと、日々の生活に密着した文章を書く練習をする。

（２）アメリカ文化理解

a. アメリカの環境に関しての文化と歴史について、書籍やニュースを用いて事前学習

b. アメリカの環境に関する教育について、教職員などに直接ヒアリング

（３）アメリカの環境問題を考える

a. 環境に関する政府や州などの対応について

b. 環境に関する民間団体の対応について

c. 環境ツアーの実際と課題について

（可能な範囲で自治体・企業・団体・大学研究室訪問やツアー参加を実施）

テキスト

必要に応じて資料を配布

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート[作品含む](50点)　平常点等(50点)　　平常点等配点内訳：MUSCでの試験結果を含め、総合的に判断する

授業科目名： データリテラシー ・ＡＩの基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 長谷川裕紀、榎並直子 担当形態：オムニバス
科　目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

授業のテーマ及び到達目標
（テーマ）AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき知識・技能（新たな読み書きそろばん）を習得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになる。
（到達目標）・AI・データサイエンスの必要性を説明できる。・社会で活用されているデータ・AI活用の事例を示すことができる。・データを処理する際の考え方を説明できる。・データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる。

授業の概要
本授業は、パソコン操作を通じて、e-Learning教材で幅広い視点からデータサイエンス・AIに関しての基礎的な知識を学習する。また、授業でわからない用語等については、自ら本やインターネットで調べながら理解を深める。

授業計画
第１回：ガイダンス、データサイエンスとは（担当：長谷川）
第２回：社会で起きている変化（担当：長谷川）
第３回：社会で活用されているデータ（担当：長谷川）
第４回：AIとは（担当：榎並）
第５回：AIの利活用（担当：榎並）
第６回：データ活用とは（担当：榎並）
第７回：データ・AI利活用の現場（担当：榎並）
第８回：データの種類、データの可視化（担当：長谷川）
第９回：度数分布表、データの代表値（担当：長谷川）
第１０回：データの散布度、データの標準化（担当：長谷川）
第１１回：クロス集計表の見方、２つの質的データの関連性（担当：長谷川）
第１２回：散布図、相関係数、回帰分析（担当：長谷川）
第１３回：母集団と標本、標本抽出、データを利用した問題解決のステップ（担当：長谷川）
第１４回：データ・AIを扱う上での留意事項（１）
「ELSI」とは何か、データ活用と個人情報の保護（担当：長谷川）
第１５回：データ・AIを扱う上での留意事項（２）
情報セキュリティの原則、セキュリティ技術（担当：長谷川）

テキスト
特になし

参考書・参考資料等
やさしく学ぶ　データ分析に必要な統計の教科書/羽山博著/株式会社インプレス
はじめてのAIリテラシー（基礎テキスト)/岡嶋 裕史,吉田 雅裕著/技術評論社

学生に対する評価
平常点等（100点）各回の確認テスト（6点×5回・7点×10回）
なお、第8回から第13回の確認テスト7点のうち、Excelの演習課題から3点分出題

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 井谷信彦、大倉健太郎 担当形態：クラス分け・単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、また、教育実践に関わる基礎理論と実際の取り組みを学び、現代変遷してきたのかを理解する。教育の抱えている課題を理解する。

（到達目標）（１）教育という営みの基本的概念、及び教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解している。（２）教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解している。（３）教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

授業の概要

上記（１）（２）（３）の各項目に関する講義をおこなう。また、各回のテーマに関わるテキストや資料などを活用し、ワークシートを用いた省察や、受講生同士のディスカッションの時間を設けることがある。これにより、「教育」や「子ども」めぐる思索のための基礎を養うと同時に、教員としての自覚を育む。

授業計画

第１回：教育の意義と児童福祉：オオカミに育てられた少女？
第２回：教育の目的と児童福祉Ⅰ：子どもの成長発達・学校教育の目的と役割
第３回：教育の目的と児童福祉Ⅱ：学校の中の教師/外の教師・子どもの権利
第４回：教育と子どもの関係性Ⅰ：「悪」の体験と子ども・地域（PTAC）で育つ子ども
第５回：教育と子どもの関係性Ⅱ：教育思想の歴史　・子ども観/教育観/学校（観）の変遷
第６回：教育と子どもの関係性Ⅲ：子どもを取り巻くモノ・媒介としての教授法
第７回：子どもと環境Ⅰ：子どもを取り巻く人々・近代社会と公教育
第８回：子どもと環境Ⅱ：戦後の日本社会と教育理念・公教育の原則
第９回：子どもと環境Ⅲ：自己、他者、生命の探求・社会の「眼差し」・大人の「眼差し」
第１０回：教育実践の理論と実際Ⅰ：多様な学び/多彩な授業・日本の教育行政と学校経営
第１１回：教育実践の理論と実際Ⅱ：道徳性の育成と教育　・日本の教育課程とその特色
第１２回：教育実践の理論と実際Ⅲ：授業実践の分析・新しい教育と授業の取組み
第１３回：現代社会と教育Ⅰ：教育問題と学びのニヒリズム・生涯学習社会
第１４回：現代社会と教育Ⅱ：子どもの「いまここ」に向きあう　・日本の教育課題
第１５回：現代社会と教育Ⅲ：教師の即興性と臨床の知・世界的な教育課題

テキスト

井藤元編・著/『ワークで学ぶ教育学』/ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

『いまがわかる教育原理』（西本望編）みらい

学生に対する評価

・コメントシート、ワークシート、中間試験、レポート等を含む平常点100点

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名：大津尚志 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

授業のテーマ及び到達目標
（テーマ）１．西洋・日本の教育史を概観することにより、教育を歴史的側面から考察する力を育成する。２．教育思想の現代的意義を探求する力を育成する。３．現代日本の教育課題について、歴史的に考察する力を養う。
（到達目標）①古代から現代に至る西洋・日本の教育思想・制度の特徴を理解し、歴史的背景や現代的意義を考察できる。②教育の歴史を学ぶことにより、現代日本の様々な教育問題を理解できる。③教育思想を学ぶことによって、中高教員としての教育観を形成する。

授業の概要
大きくわけて、（１）日本教育史総論（２）日本教育史各論（３）西洋教育史の順序で授業を行う。

授業計画
第１回：はじめに、オリエンテーション　教育史を学ぶ意味
第２回：江戸時代の教育、明治維新と教育
第３回：教育勅語と戦前の教育
第４回：戦後改革と教育基本法
第５回：戦後の教育制度史（１）１９６０年代以降
第６回：戦後の教育制度史（２）１９８０年代以降
第７回：教育課程の歴史　戦前の教育課程
第８回：教育課程の歴史　戦後の教育課程
第９回：部活動の歴史
第１０回：生徒指導の歴史
第１１回：校則の歴史（１）戦前
第１２回：校則の歴史（２）戦後
第１３回：女子教育史
第１４回：アメリカ・イギリス教育史
第１５回：フランス・ドイツ教育史

テキスト
伊藤良高ほか編/ポケット教育小六法/晃洋書房
中学校学習指導要領解説　総則編（平成29年7月　文部科学省）
大津尚志『校則を考える』/晃洋書房

参考書・参考資料等
特になし

学生に対する評価
・レポート[作品含む](15点)
・平常点等(85点)　平常点等配点内訳：授業の積極的参加度（10点）、中テスト（25点×3）

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大倉健太郎、長井勘治 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．中高教員または栄養教諭として必要な資質能力や基礎的知識について講じる。２．特に教職の意義および役割、職務内容についての理解を深める。３．教育への理解と教職への関心を高め、進路選択における主体的な夢を喚起し、以後の学年次の教職課程履修への自覚と意欲を高揚させる。

（到達目標）①教職全体について総合的に理解し、４年間の大学生活および教職課程履修について、学ぶ意欲と計画性を高める。②教職の意義や教員の果たす役割を理解し、教職を志す意識を明確にもつ。③明確な教員像をもつことができるよう、教員の職務内容は校務分掌に基づき分担され、学校が組織として機能していることを理解する。

授業の概要

公教育の目的とその担い手である教師の役割をテーマとし、今日の学校教育が果たすべき課題や抱える問題に対して、教師にはどのような役割が求められており、どのような資質能力が必要とされているのかを考える。さらに、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校内外の専門家やステークホルダーと、いかに連携・分担して対応しているか、また対応すべきかを検討する。また、教育の可能性や素晴らしさ、やりがい等について触れることで、教職に就くための意欲や適性を考える機会としたい。

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：教職について：公教育の目的と教師のあり方
第３回：教育課題と教師の役割について：学校の現状や学校を取り巻く環境、授業や教育方法の今日的課題、そして教師に対する期待などについて
第４回：学校教育の仕組み：教師の養成や採用、研修、教育関連法、中教審、教育委員会、学校組織、学級経営、学校評価制度、チーム学校運営など
第５回：教員の職務Ⅰ：教師の職務
第６回：教員の職務Ⅱ：教師の資質能力とその仕事について
第７回：教員の服務Ⅰ：教師の服務
第８回：教員の服務Ⅱ：服務に基づく教師の役割について
第９回：事例研究Ⅰ：行事について（修学旅行、遠足等）・ニューカマーの子どもたち
第１０回：事例研究Ⅱ：行事について（体育祭、文化祭等）・児童虐待とネグレクト
第１１回：事例研究Ⅲ：分掌業務について（教務、進路指導、「チーム学校」運営等）・家庭の貧困
第１２回：事例研究Ⅳ：分掌業務について（生徒/保健指導､学校運営等）・高校教育
第１３回：事例研究Ⅴ：部活動について（技術指導、年間計画の作成等）・防災・安全教育
第１４回：事例研究Ⅵ：部活動について（学年を超えたチームワーク、保護者との連携等）・生徒指導
第１５回：まとめ：今後の展望

テキスト

教育の最新事情がよくわかる本2020/教育開発研究所編/教育開発研究所

参考書・参考資料等

中高・学習指導要領（平成29・30年度告示）および解説、保健体育編/文部科学省/東山書房

学生に対する評価

・レポート、課題発表、課題提出、試験等を含む平常点100点

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 大津尚志、楠山研 担当形態：クラス分け・単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．中高教諭または栄養教諭に必要な、わが国現行の公教育制度とその行政・政策システムに係る教育法規について教育行政学の視点から講義し、理解を深める。２．現代の公教育制度を運営・管理・改革する教育行政およびその実践主体としての学校の経営と学級経営について、基礎的知識・技能を学ぶ。

（到達目標）①教育的行為が日常的に展開されている基本的な教育空間と教育機能等について基礎的理解を得る。②公教育制度としての学校教育システムについて、法制度の視点から基礎的知識を得る。

授業の概要

教育は法律がつくる制度のなかでおこなわれるものである。よりよい教育実践を行うためには教育制度についての理解も不可欠である。教育と法律の関係をより深く理解することを求める。法律にもとづいて執行される教育行政についてのさまざまな問題を扱う。

授業計画

第１回：教育行政学を学ぶ目的
第２回：教育と法（教育を受ける権利、教育基本法と教育行政）
第３回：教育行政の歴史１（戦前）戦前の制度原理
第４回：教育行政の歴史２（戦後）　戦後改革の原理など
第５回：家庭教育と法（地域社会と教育行政、「開かれた学校」の意義、地域との連携･協働）
第６回：保育・幼児教育と法（幼児教育行政、認定こども園制度など）
第７回：学校制度と法（義務教育制度、私立学校制度など制度原理に関する事項）
第８回：学校経営と法（地域社会・保護者と学校との連携）
第９回：教育課程と法（教育内容行政）
第１０回：生活指導・学校安全と法（生徒の懲戒、体罰、危機管理・事故対応）
第１１回：　校則と教育行政（生活指導と校則）
第１２回：教員制度と法（教員養成・採用・研修、教員関連法規）
第１３回：教育行財政と法（教育の地方自治、教育委員会制度）
第１４回：教育と社会福祉と法（子どもの貧困対策と教育行政）、　社会教育・生涯学習と法
第１５回：学校と地域との連携、学校安全への対応、まとめ、小テスト

テキスト

伊藤良高ほか編『新版　教育と法のフロンティア』晃洋書房
伊藤良高ほか編『ポケット教育小六法』晃洋書房
大津尚志　『校則を考える』

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

・レポート[作品含む](10点)
・平常点等(90点)　平常点等配点内訳：授業の積極的参加度（10点）、小テスト（80点）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 北口勝也、松田信樹 担当形態：クラス分け・単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を身につける。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得し、主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。

（到達目標）（１）乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している。（２）主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している。（３）教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。

授業の概要

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を身につける。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得し、主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。

授業計画

第１回：心理学とはどのような学問か？－教育心理学（発達と学習の心理学）を学ぶ意義－
第２回：学習のメカニズム①：学習のしくみを知る
第３回：学習のメカニズム②：行動のしくみを知る
第４回：「やる気」の心理学①：学習に対する動機づけのしくみ
第５回：「やる気」の心理学②：学習に対する動機づけの形成
第６回：学習を支える記憶のメカニズム①：記憶のしくみを知る
第７回：学習を支える記憶のメカニズム②：記憶に残る教授法を考える
第８回：だれのための評価？－教授法と教育評価：いかに教え、いかに評価するか－
第９回：学級集団の理解　－中間テスト実施－
第１０回：生徒の発達過程－人間が発達するとはどういうことか：発達観の明確化－
第１１回：性格とは何か？－人間の発達を支える２つの柱：遺伝と環境－
第１２回：生涯発達のあゆみ①：新生児期から乳児期にかけての発達
第１３回：生涯発達のあゆみ②：幼児期から児童期にかけての発達
第１４回：生涯発達のあゆみ③：生徒に見られる心の問題－青年期の発達－
第１５回：発達障がいを抱える子どもの発達と学習の過程
定期試験

テキスト

松田信樹/育ちと学びの心理学－こどもの成長に寄り添うために－/あいり出版

参考書・参考資料等

やさしい教育心理学　鎌原 雅彦，竹綱 誠一郎　有斐閣アルマ

学生に対する評価

・平常点等(100 点)：中間テスト 30 点、提出を求められた課題への取り組み 20 点、最終テスト 50 点

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉田絵美、稲葉小由紀 担当形態：クラス分け・単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．人間の発達を単なる成長と捉えることなく、乳幼児期から青年期の各時期に起こる様々な事象を通して発達し続けていることを学ぶ。２．特に人間の心理的発達について、心理学的視点から考察を深める。

（到達目標）①乳幼児から成人までの発達過程を理解する。②中学生および高校生の発達課題を理解し、教育実践に生かすことができる。

授業の概要

発達心理学は、人の心の発達的変化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の筋道が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。

また、中学生や高校生における不適応の問題の根源は、乳児期および幼児期に形成されることが極めて多い。その時期の発達の基礎を確実に身につけることで、その後の思春期や青年期での健全な発達のサポートが可能となる。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達的な視点からとらえる姿勢を養うことを目標とする。

授業計画

第１回：発達心理学とはなにか
第２回：発達のもつ性質、発達における遺伝と環境の問題
第３回：初期経験の重要性、発達段階と発達課題の考え方
第４回：乳児の認知能力の発達、視覚の発達、行動の特徴
第５回：人見知り、乳児の気質、愛着の形成と親子関係
第６回：乳児期から幼児期のことばの発達
第７回：自我の発達、第一次反抗期
第８回：認知・思考の発達、ピアジェの認知発達論、思考の特徴
第９回：遊びの発達とこころの理論、発達障害
第１０回：仲間関係の発達、集団成員間の人間関係
第１１回：読み書き計算の能力の発達、道徳性の発達
第１２回：思春期・青年期の認知の発達
第１３回：自我同一性と社会性の発達
第１４回：成人期・老年期の特徴、死への準備
第１５回：発達心理学のまとめ―まとめテスト実施―

テキスト

よくわかる発達心理学　第2版/無藤隆・岡本祐子・大坪泊彦（編）/ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業内で実施する小テスト(50点)・まとめテスト(50点)

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 吉田裕彦、渡邊真美 担当形態：クラス分け・単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任も各種障害について知識や技能が求められていることの現状と背景について講じる。２．各種の障害を有する幼児児童生徒への効果的な教育や支援のあり方や関係機関との連携を密にした教育実践を行うため知識や技能を理解する。３．障害はないが特別の教育ニーズのある幼児児童生徒の学習上、生活上の困難とその対応を理解する。

（到達目標）①各種の障害および障害児について基本事項を理解する。②障害児を指導するための実態把握や指導方法を知る。③各種の障害に基づいた教育のあり方を理解する。④障害児を育てる保護者の心情を理解する。⑤障害児者が置かれている社会的状況を知る。⑥事例をもとに指導方法を考えることができる。⑦障害はないが特別の教育ニーズのある児の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。

授業の概要

・インクルーシブ教育システムの構築の理念とその背景を中心とした基礎知識
・発達の原理と発達を踏まえた指導
・特別支援学校、特別支援学級、通常学級における合理的配慮と教育課程
・個別の教育支援計画、個別の指導計画と自立活動
・各障害の基礎知識と指導方法
・特別の教育ニーズに対応する校内支援体制と保護者や関係機関との連携

授業計画

第１回：特別支援教育の動向と求められる教員の資質
第２回：子どもの発達と自立活動の教育課程上の位置づけと内容
第３回：視覚障害の基礎知識と指導方法
第４回：聴覚障害の基礎知識と指導方法
第５回：知的障害の基礎知識と指導方法
第６回：肢体不自由の基礎知識と指導方法
第７回：病弱・身体虚弱の基礎知識と指導方法
第８回：重度重複障害の基礎知識と指導方法
第９回：言語障害の基礎知識と指導方法
第１０回：自閉症・情緒障害の基礎知識と指導方法
第１１回：学習障害の基礎知識と指導方法
第１２回：注意欠如多動性障害の基礎知識と指導方法
第１３回：特別な支援を必要とする児童生徒について
第１４回：特別支援教育における校内支援体制について
第１５回：家庭と教育と福祉等との連携について

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示　文部科学省）、高等部（平成31年2月　文部科学省）、障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～（令和3年6月　文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）その他、授業中に適宜資料を提示。

学生に対する評価

・小レポート等の平常点：60点
・テスト（複数回実施）：40点

授業科目名： 教育課程総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：大津尚志 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．新教育基本法によるわが国教育の基本的な目的と方向性を理解し、特に「新学習指導要領」の理念や教育課程についてその基本となる事項や実践上の課題等、具体的な理解を図る。２．現場での教育課程の編成、方法や技術など教育活動をより効果的に実践していくための運営とその能力を育成する。３．上記目的を踏まえ、教育課程論の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。

（到達目標）学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成するカリキュラム編成力を高める。①学習指導要領を理解し、教育課程編成の基準となる事項および教育活動の内容を理解する。②教育課程論、教育内容･方法論等に係る具体的実践事例を通して、学校教育のあり方、カリキュラムのあり方を常に創造的に問い直すことのできる能力と姿勢を身に付ける。

授業の概要

平成３０年に新しい高等学校学習指導要領が告示された。学習指導要領がどのような考え方にもとづいてつくられているか、改訂の基本方針など、各教科の指導法を学んでいくための前提となる知識を身につけることを主たる内容とする。また、総合的な学習の時間、特別活動の指導法についても言及する。

授業計画

第１回：はじめに　教育課程とは
第２回：教育課程と法規　教育基本法　学校教育法など
第３回：教育課程の歴史　戦前
第４回：教育課程の歴史　戦後
第５回：平成２９年版学習指導要領（総則１　改訂の経緯、基本方針ほか）
第６回：平成２９年版学習指導要領（総則２　配慮事項ほか）
第７回：平成２９年版学習指導要領（総合的な探究の時間、カリキュラム編成、理論と実践）
第８回：平成２９年版学習指導要領（特別活動１　学級活動、生徒会活動）
第９回：平成２９年版学習指導要領（特別活動２　学校行事、部活動）
第１０回：教育課程と学習評価、カリキュラム評価
第１１回：教育課程の経営と編成（カリキュラム・マネジメント、教科、総合、道徳、特活すべてを含む）
第１２回：ヒドゥン・カリキュラム論
第１３回：アメリカ・イギリスの教育課程
第１４回：フランス・ドイツの教育課程
第１５回：まとめと小テスト

テキスト

中学校学習指導要領解説　総則編/文部科学省/東山書房
中学校学習指導要領解説　特別活動編/文部科学省/東山書房
中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編/文部科学省/東山書房
高等学校学習指導要領解説　総則編/文部科学省/東洋館出版社
高等学校学習指導要領解説　特別活動編/文部科学省/東京書籍
高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編/文部科学省/学校図書
ポケット教育小六法　/伊藤良高/晃洋書房
新版　教育課程論のフロンティア/大津尚志ほか編/晃洋書房
校則を考える/大津尚志/晃洋書房

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度(10点)、小レポート(10点)、小テスト(80点)参加人数によってはテストにかえてレポートを課す場合がある。授業中に指示する。

授業科目名： 総合的な学習の時間と特別活動	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：藤本勇二 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・総合的な学習（探究）の時間の指導法 ・特別活動の指導法		

授業のテーマ及び到達目標
（テーマ）小・中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間および特別活動の特徴をとらえるとともに、具体的な演習等を通して、初等中等教育における総合学習や特別活動の指導のあり方について理解を深める。
（到達目標）学習指導要領における総合的な学習の時間・特別活動の目標および内容を理解している。教育課程上の位置付けや他教科等との関連を理解している。活動の特質を理解し、適した指導計画や指導法のあり方について理解している。

授業の概要
前半に、総合的な学習の時間に関する講義・演習を行い、後半に特別活動の講義・演習を行うことを通して、ねらいや内容､具体的な活動事例､指導法等ついて理解を深め、指導力向上をめざす。

授業計画
第１回：本講義の特徴と授業計画の提示（講・演）：「総合的な学習の時間」(前半)･「特別活動」(後半)の流れを示すスキルアップワーク「学習(探究)計画」(総合)「自己紹介・他者紹介」(特活)
第２回：「総合的な学習の時間」の成立とその変遷（講・演）：「総合的な学習の時間」の意義･目標･内容等を整理するグループワーク(ジグソー法)「各学習指導要領上に見られる特徴・内容・配慮事項」
第３回：「総合的な学習の時間」の探究（講・演）：テーマ･内容設定の考え方(テーマの設定と設定方法の検討等)グループワーク(テーマの設定)「テーマ例：環境･福祉･キャリア･情報･経済･文化遺産等」
第４回：「総合的な学習の時間」の探究（講・演）：指導計画の立案に関する考え方(各教科等との関連、年間指導計画等)スキルアップワーク(指導計画)「年間指導計画案作成」
第５回：「総合的な学習の時間」の探究（講・演）：単元デザイン(単元目標･内容･構成･展開)－スキルアップワーク(単元作成)「探究的なプロセスを踏まえた単元づくり」
第６回：「総合的な学習の時間」の探究（講・演）：学習指導(主体的･対話的で深い学びの工夫と留意点)グループワーク(探究活動に必要な指導スキル)「具体的な指導技術(思考ツールの活用等)」
第７回：「総合的な学習の時間」の探究（講・演）：指導と評価(学習過程および評価法に関する留意点等)スキルアップワーク(評価法)「評価の考え方と評価テクニック」
第８回：「特別活動」の成立とその変遷（講・演）：学習指導要領(戦後～現在)の「目標･内容･方法」を整理するスキルアップワーク(協働による模擬試験の解答)
第９回：「特別活動」の探究（講・演）：出身校における調査から学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特徴を理解するスキルアップワーク(ネット検索･情報編集･分析･まとめ･報告)
第１０回：「特別活動」の探究（講・演）：学級活動･ホームルーム活動(教育課程上における意義と指導のポイント)グループワーク(ソーシャルワーク･ゲームの活用)
第１１回：「特別活動」の探究（講・演）：児童会・生徒会活動(教育課程上における意義と指導のポイント)スキルアップワーク(プランニングとポートフォリオ)
第１２回：「特別活動」の探究（講・演）：学校行事(教育課程上における意義と指導のポイント)、グループワーク（活動の整理と地域連携の事例検討)
第１３回：「特別活動」の探究（講・演）：クラブ活動(教育課程上における意義と指導のポイント)、スキルアップワーク(マイキャリアシート)
第１４回：「特別活動」の探究（講・演）：指導計画と評価(他教科連携、協働的な学びに繋がる活動計画と地域連携型評価)プレゼンテーション･グループワーク(プランニングシート･評価ツール)
第１５回：本講義のまとめ（講・演）：本講義内容「総合的な学習の時間」と「特別活動」に対する自らの学びを振り返るスキルアップワーク(ジャーナル作成)「本講義で学び得たこと」

テキスト
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編/特別活動編（平成29年6月　文部科学省）
中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編/特別活動編（平成29年7月　文部科学省）
高等学校学習指導要領解説（平成30年　文部科学省）

参考書・参考資料等
必要に応じて授業中に紹介する

学生に対する評価
レポート提出(20 点)、課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等提出(60 点)、授業中の態度(20 点)とともに、学生による自己評価も加味して、総合的に評価する。
（評価基準）
出席レポート：
講義中に学んだことを要約し、自分の意見を明確に述べている（A)
講義中に学んだことを要約していたり、自分の意見を述べていたりしている。(B)
講義中に学んだことも自分の意見も明確に述べていない（C)
課題（スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション）レポート・作品等：
自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを明確かつ簡潔に表している（A)
自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表している（B)
自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表しきれていない（C)
授業中の態度：
自分の意見を持って主体的に参加するとともに他者との協力も積極的に行うことができている（A)
自分の意見を持って参加するとともに他者との協力もできている（B)
自分の意見を持った参加や他者との協力ができていない（C)

授業科目名： 教育方法の理論と実践	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 中川昌幸、中尾尊洋 担当形態： クラス分け・オムニバス
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあてて理論と実践の乖離を超克し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。２．「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。

（到達目標）（１）教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観をもつことができる。（２）授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。

授業の概要

日本や諸外国の教育方法を、学力観、学習指導法、教育メディアの利用、保育・授業研究の方法論を視点として、解説する。また、授業の事例を提示したり受講生自身で調べてもらったりし、受講生同士の対話を通じて多様な教育方法に関する知識を理解し、学習内容を反映した指導案を策定する。

授業計画

第１回：教育方法学の概観　（担当：中川）
第２回：近代教育思想と教授学の成立（担当：中川）
第３回：授業の設計と学習指導案の作成（担当：中尾）
第４回：教育目的・教育目標、資質・能力（担当：中尾）
第５回：教材・教具、教科書の役割（担当：中川）
第６回：教授行為、板書・発問の技術（担当：中川）
第７回：学習形態　個別学習、一斉学習、討論学習（担当：中尾）
第８回：教育評価と学習評価、パフォーマンス評価（担当:中尾）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之/新しい時代の教育方法（改訂版）/有斐閣アルマ
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年　文部科学省）

学生に対する評価

平常点(60点：学習の記録30・発表30点)、レポート課題（40点）

授業科目名： ICT活用の理論と実践	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： １単位	担当教員名： 松本宗久、藤本光司、村田育也、榎並（住野）直子 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．情報通信技術（以下 ICT）の活用と理論を理解する。２．ICT を効果的に活用した学習指導や校務の推進のあり方を理解する。３．生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための基礎的な指導法に関する知識や技能を身につける。

（到達目標）①個別最適な学び、協働的な学びの実現や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の観点から、学校教育における ICT の活用の意義とあり方を理解する。②学校教育における ICT の活用を支える ICT 環境整備、外部人材・外部機関との連携、教育情報セキュリティの重要性について理解する。③ICT を効果的に活用した校務の推進について理解する。④教科等横断的な情報活用能力の育成や、各教科等の指導における ICT 活用についての理論と方法を身につける。⑤教育データを活用した学習指導や学習評価、遠隔・オンライン教育についての理論と方法およびそれらに必要な機器操作を身につける。

授業の概要

教育現場におけるICTの活用について、理論と社会的背景をふまえた上で、情報活用能力に関して、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけや情報モラル等について解説する。また、現場での授業における生徒および教員によるICT活用の他、教育データの活用と校務の推進や、遠隔・オンライン教育について取り上げる。なお、本講義では、教員による解説・事例紹介とともに、学生自身が各種ICT機器や環境を活用し、体験的に学修する機会を設ける。

授業計画

第１回：教育の情報化に関する理論と社会的背景、学校の ICT 環境
第２回：情報活用能力の育成（１）学校生活と教科等横断的な情報活用能力の育成
第３回：情報活用能力の育成（２）情報モラル（デジタルシティズンシップ）の育成
第４回：学習指導と校務のためのICT 活用（１）学びの個別最適化・協働化と教科等における ICT 活用
第５回：学習指導と校務のためのICT 活用（２）教科等における ICT 活用の指導事例、特別支援における ICT 活用
第６回：学習指導と校務のためのICT 活用（３）遠隔･オンライン教育の意義とシステム活用法
第７回：学習指導と校務のためのICT 活用（４）教育データの活用と校務の推進
第８回：情報セキュリティ、まとめとふりかえり

テキスト

適宜プリント教材を配布・配信する
また講義内で、参考図書・文献を紹介する予定である

参考書・参考資料等

デジタル・シティズンシップ:コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び　大月書店
ISBN-13:978-4272412594

学生に対する評価

１.小試験（講義中に実施）40%、２.レポート 40%、３.授業態度20%、の総合評価

授業科目名： 生徒指導･進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 濱﨑伸樹、橋本光能 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．学校現場において、いじめ・不登校・暴力行為・学級崩壊など様々な問題が生起している実態や背景・原因等を知る。２．生徒指導の意義を正しく理解するとともに、生徒指導上の課題にいかに対応し得るかを主体的かつ具体的に考察する。３．進路指導上の課題と対応について考察する。

（到達目標）①生徒指導の意義と機能について理解する。②教育課程と生徒指導の関連を理解する。③生徒指導体制の重要性を理解する。④青年期の心理と発達の特徴を理解する。⑤生徒理解の方法を理解する。⑥進路指導の意義と方法を理解する。

授業の概要

２０世紀初頭にはじまる生徒指導の歴史的・理論的な流れを追い、今日の到達点と課題を考察する。とくに非行、不登校、発達障害、虐待、進路指導などの生徒指導上の実態や今日的課題とそれへの実践的対応を具体的に提示し、学生自身が体験的とらえている事実と照合させながら考えさえたい。また、先進的な生徒指導実践を紹介し、教員間やカウンセラー、関係諸機関、保護者との連携や協働（カンファレンス､コンサルテーションなど）についても詳説する。

授業計画

第１回：学校教育と生徒指導および進路指導－生徒指導・進路指導の位置づけ、意義、機能
第２回：生徒指導実践の実際－子ども理解と生徒指導の在り方（個別指導・集団指導）
第３回：現代の生徒指導の課題（１）学級担任の役割と生徒指導
第４回：現代の生徒指導の課題（２）児童虐待など支援が必要な子どもたちとその背景
第５回：現代の生徒指導の課題（３）学習の背景としての家庭と親の教育観
第６回：現代の生徒指導の課題（４）校則と子どもの生活を圧迫する学校の課題
第７回：生徒指導・進路指導の理論（１）日々の指導のあり方とキャリア・カウンセリング
第８回：生徒指導・進路指導の理論（２）積極的生徒指導（開発・予防的指導）と消極的生徒指導（治療的指導）
第９回：生徒指導・進路指導の理論（３）教育相談とカウンセリング、カンファレンス
第１０回：生徒指導の理論（１）不登校の実態と相談活動、関係機関との連携
第１１回：生徒指導の理論（２）子ども理解・子どもに寄り添う生徒指導
第１２回：生徒指導の理論（３）いじめ問題の実態、背景と組織的対応
第１３回：進路指導の課題と実際（１）進路に関する子どものストーリーと進路指導、教師のあり方
第１４回：進路指導の課題と実際（２）発達課題を支援する教育相談・進路相談、福祉機関との連携
第１５回：進路指導における学校と家庭、地域、関係機関との連携－コンサルテーションの意義とそのあり方

テキスト

生徒指導提要（令和４年１２月　文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

・レポート［作品を含む］(60点)
・平常点等(40点)　平常点等配点内訳：授業中の課題テスト及び小レポート40点

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 磯部美良、宋知潤 担当形態：クラス分け・単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

（テーマ）１．教師に求められる同僚や保護者と協働できるコミュニケーション能力、自己表現力を、臨床心理学やカウンセリング事例等に基づき講じる。２．「聴く」力を養い、問題行動のもつ意味、予防方法、問題が生じた時、教師や保護者ができることについて学ぶ。

（到達目標）①学校教育における教育相談の重要性について理解を深め、学校教育において直面する多様な問題に適切に取り組むことができる。②教育相談の知識と基礎的能力を修得する。③自分の考え方や価値観を自覚し、コミュニケーション能力を身につける。

授業の概要

教員にとって必須である教育相談の知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身に付けるために、基礎的な心理学的知見と、それらを教育の現場でどのように応用するかを学ぶ。前半は、教育相談の対象となる様々な課題を把握し、支援するための基礎的な知識について学習する。後半は、それらの課題に対してどのように対応したらよいのかについて、心理学的知見を応用しながら、事例を通して、教育相談の具体的な進め方を理解する。受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な技法の学習・定着のため、適宜、ロールプレイやグループワーク、グループ討論を行う。

授業計画

第１回：教育相談を学ぶ意義と現代的課題
第２回：不適応や問題行動を捉える心理学的視点
第３回：不適応や問題行動への基本的な対応
第４回：子どもたちのシグナル
第５回：カウンセリングマインドの必要性
第６回：カウンセリングの基本的な姿勢と技法
第７回：教育相談の具体的な進め方
第８回：事例から考える（１）いじめ
第９回：事例から考える（２）不登校
第１０回：事例から考える（３）発達障害
第１１回：事例から考える（４）虐待
第１２回：事例から考える（５）非行
第１３回：事例から考える（６）保護者との関わり
第１４回：組織的な取り組みや専門機関との連携の必要性の理解
第１５回：教員のメンタルヘルス

テキスト

生徒指導提要（平成22年3月　文部科学省）
認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメント―社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック（ウェブスター・ストラットン著、金剛出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

・平常点等(100点)　平常点等配点内訳：授業中に行う小レポートが40点、提出物が60点

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：２単位		教科担当教員：井浪真吾 教職担当教員：大倉健太郎	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制

①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）１．中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。２．学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。３．中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。

（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要

中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：大倉）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：大倉）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：大倉）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：大倉）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：大倉）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：大倉）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：大倉）
第１１回：国語科の目標と内容（演習）（担当：井浪）
第１２回：国語科の授業設計（演習）（担当：井浪）
第１３回：国語科の授業実践（演習）（担当：井浪）
第１４回：国語科の授業分析（演習）（担当：井浪）
第１５回：国語科の実践主体（演習）（担当：井浪）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編

参考書・参考資料等

吉川芳則編著『アクティブ・ラーニングを位置付けた中学校国語科の授業プラン』（明治図書出版・2016年）

学生に対する評価

・平常点等(100点)　　平常点等配点内訳：
Ａ教職系60％【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ・Ｃ　教科系30％【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：２単位		教科担当教員：本井優太郎 教職担当教員：大倉健太郎	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制

①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）１．中学校や高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。２．学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。３．中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。

（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要

中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：大倉）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：大倉）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：大倉）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：大倉）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：大倉）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：大倉）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：大倉）
第１１回：社会科・地理歴史科目の授業計画と方法（担当：本井）
第１２回：専門的知識を活かした教材づくり（担当：本井）
第１３回：フィールドワークの意義と方法（担当：本井）
第１４回：模擬授業の実践と批評（１）中学校社会科（担当：本井）
第１５回：模擬授業の実践と批評（２）高等学校地理歴史（担当：本井）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト

中学校、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編、

参考書・参考資料等

『中学社会　歴史　未来を開く』（教育出版、令和3年）、『詳説日本史B　改訂版』（山川出版社、令和3年）、『詳説日本史図録　第9版』（山川出版社、令和3年）

学生に対する評価

・平常点等(100点)　　平常点等配点内訳：
Ａ教職系60％【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ・Ｃ　教科系30％【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：２単位		教科担当教員：村田成範 教職担当教員：志水宏吉	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制

①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）　1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。

（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要

中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：志水）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：志水）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：志水）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：志水）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：志水）
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：志水）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：志水）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：志水）
第１１回：中学校・高等学校「理科」の教育実習時の授業報告およびディスカッション（担当：村田）
第１２回：「理科」授業におけるデジタル教科書などＩＣＴの効果的な活用法、教材開発や生徒の活用含む（担当：村田）
第１３回：「理科」授業における観察力とコミュニケーション・評価方法（担当：村田）
第１４回：「理科」の模擬授業の実施・相互検討①（担当：村田）
第１５回：「理科」の模擬授業の実施・相互検討②と総合講評（担当：村田）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編

参考書・参考資料等

必要な資料は授業内で配布する。

学生に対する評価

・平常点等(100点)　　平常点等配点内訳：
Ａ教職系60%【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ・Ｃ　教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。

※1　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
※2　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）	単位数：２単位	教科担当教員：大澤智恵 教職担当教員：志水宏吉

科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制

①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）１．中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。２．学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。３．中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。

（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要

中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle　Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：志水）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：志水）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：志水）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：志水）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：志水）
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：志水）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：志水）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：志水）
第１１回：教育実習時の音楽科授業より課題の抽出、
　　第１２～第１５回の授業分析・模擬授業について（担当：大澤）
第１２回：音楽科授業における指導活動と学習活動の組織、授業の段取り力（担当：大澤）
第１３回：音楽科授業におけるコミュニケーション・観察力・評価（担当：大澤）
第１４回：音楽科授業における教材開発と環境の整備（担当：大澤）
第１５回：音楽科教師の困難の克服と成長、生涯の支えとなる音楽教育へ（担当：大澤）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト

新版 中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法 /齊藤忠彦・菅 裕 編著/教育芸術社

参考書・参考資料等

音楽科における教師の力量形成/高見仁志/ミネルヴァ書房

学生に対する評価

・平常点等(100点)　平常点等配点内訳：Ａ教職系60％【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ教科系30％【④授業構想力と実践力】
Ｃ教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。

※1　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
※2　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：２単位		教科担当教員：満武華代 教職担当教員：大倉健太郎	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制
①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ
（テーマ）１．中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。２．学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。３．中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。
（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要
中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：大倉）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：大倉）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：大倉）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：大倉）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：大倉）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：大倉）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：大倉）
第１１回：中学校･高等学校｢保健体育｣の指導力に関する事項（１）-教材理解力-（担当：満武）
第１２回：中学校･高等学校｢保健体育｣の指導力に関する事項（２）-教材開発力(ICT活用含む)-（担当：満武）
第１３回：中学校･高等学校｢保健体育｣の指導力に関する事項（３）-指導計画力-（担当：満武）
第１４回：中学校･高等学校｢保健体育｣の指導力に関する事項（４）-授業実践力(ICT活用含む)-（担当：満武）
第１５回：中学校・高等学校｢保健体育｣の指導力に関する事項（５）-授業省察力-（担当：満武）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト
中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編

参考書・参考資料等
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編（文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編・英語編（文部科学省）

学生に対する評価
・平常点等(100点)　　平常点等配点内訳：
Ａ教職系60％【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ・Ｃ　教科系30％【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。

※1　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）	単位数：２単位	教科担当教員：末弘由佳理 教職担当教員：志水宏吉

科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制

①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）１.中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。２.学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。３.中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。

（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要

中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：志水）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：志水）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：志水）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：志水）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：志水）
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：志水）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：志水）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：志水）
第１１回：中学校･高等学校「教科家庭」の教育実習時の授業報告およびディスカッション（１）（担当：末弘
第１２回：中学校･高等学校「教科家庭」の教育実習時の授業報告およびディスカッション（２）（担当：末弘
第１３回：中学校･高等学校「教科家庭」の各分野に関する教材開発および指導案の作成（１）（担当：末弘）
第１４回：中学校･高等学校「教科家庭」の各分野に関する教材開発および指導案の作成（２）（担当：末弘）
第１５回：中学校･高等学校「教科家庭」の模擬授業の実施・検討とまとめ（担当：末弘）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

・平常点等(100点)　　平常点等配点内訳：
Ａ教職系60％【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ・Ｃ　教科系30％【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：２単位		教科担当教員：佐藤万寿美 教職担当教員：志水宏吉	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制

①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）１．中学校や高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。２．学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。３．中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。

（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要

高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：志水）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：志水）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：志水）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：志水）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導（担当：志水）
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：志水）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：志水）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：志水）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：志水）
第１１回：「情報」授業の固有性と実践課題①（講義）（担当：佐藤）
第１２回：「情報」授業の固有性と実践課題②（演習）（担当：佐藤）
第１３回：模擬授業とカンファレンス①「情報Ⅰ」（担当：佐藤）
第１４回：模擬授業とカンファレンス②「情報Ⅱ」（担当：佐藤）
第１５回：総まとめ（求められる教師像と使命感）（担当：佐藤）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編

参考書・参考資料等

検定教科書「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」（出版されている教科書）、『これからの情報科教育「情報科教育法」』（鹿野利春,高橋参吉,西野和典　編著、実教出版）ISBN978-4-407-35521-5

学生に対する評価

・平常点等(100点)　　平常点等配点内訳：
Ａ教職系60％【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ・Ｃ　教科系30％【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。

※1　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
※2　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：２単位		教科担当教員：山形悟史 教職担当教員：大倉健太郎	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握(※１)	○	学校現場の意見聴取（※２）	×

受講者数　20　人　（20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施

教員の連携・協力体制

①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。

授業の到達目標及びテーマ

（テーマ）　１．中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。２．学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。３．中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。

（到達目標）①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。

授業の概要

中学校・高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。

第１回：本講の目的と概要（担当：大倉）
第２回：教員の職務と資質・能力（担当：大倉）
第３回：Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割（担当：大倉）
第４回：ICTの活用と学校教育（担当：大倉）
第５回：「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導
第６回：「教科等横断的な視点」を含む教科指導（担当：大倉）
第７回：「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第８回：「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援（担当：大倉）
第９回：教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携（担当：大倉）
第１０回：道徳教育の指導と計画（担当：大倉）
第１１回：中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項（１）-教材理解力-（担当：山形）
第１２回：中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項（２）-指導計画力-（担当：山形）
第１３回：中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項（３）-授業実践力-（担当：山形）
第１４回：中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項（４）-授業省察力-（担当：山形）
第１５回：中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項（５）-授業でのICT活用力-（担当：山形）
以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参し活用すること。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説（以上、文科省のHPで閲覧可能）、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編（文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編・英語編（文部科学省）

学生に対する評価

・平常点等(100点)　　平常点等配点内訳：
Ａ教職系60％【①教職理解と目的意識　②社会性・対人関係能力　③生徒理解と学級経営実践力】
Ｂ・Ｃ　教科系30％【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10％の比率で総合的に評価する。

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。